

高校ではどんなスペイン語の授業をしているの？

第 156 回関西スペイン語教授法ワークショップ (TADESKA) 例会

日時：2022 年 10 月 9 日 (日) 15:00 - 16:00

場所：Zoom を利用したオンライン開催

担当：各務恭子

¿Qué tipo de clases de español se ofrece en los institutos?

CLVI Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

Fecha y hora: Domingo, 9 de octubre de 2022, de 15:00 a 16:00

Lugar: En línea (Zoom)

Ponente: Kyoko Kakumu

「高校ではどんなスペイン語の授業をしているの？」について一つの事例として担当者の勤務する 3 校の授業について発表した。3 校とも 1 年目の授業はほぼ同じ内容である。基本文法や動詞の活用の説明の後、単語をカード等を使って覚え、応用が利くような例文も覚えて、書けるようにしている。またスペイン・中南米の文化や習慣等を紹介した DVD を観たりもしていることを話した。

3 校ともかなり特色がある高校であるが、通常 2 年間 6 言語から選択必修する形を取っている A 校について一番多く言及した。A 校は常にネイティブ講師とのチームティーチングということもあり、生徒たちは聴く力はかなりついていると担当者は感じていることや、また 2 年目に週に 4 時間選択するのも可能で、語学だけでなくスペイン語圏の文化、生活習慣などを中心に学ぶ授業をおこなっているといった話をした。ここ 2 年間は実施していないが、毎年 3 年生でスペイン・中南米料理の調理実習をしている。またほぼ毎年スペイン語検定を生徒約 30 名中、5~6 人が 6 級を受験し、結果を出している。この A 校では日本人講師は教員免許を持っているが、ネイティブ講師はどの言語の講師も持っていない。

次に B 校は在籍している生徒に外国人が多いのが特徴で 2 年間続けて履修も可ということもあり、スペイン語履修 1 年目の生徒と 2 年目の生徒が混在して授業をおこなっていること、C 校はスペイン語、韓国語、中国語を含む多くの選択科目の中から、選択必修で週に 2 時間 1 年間のみ学ぶ高校であることを紹介した。

これは 3 校ともに共通することあるが「シラバス」や「年間学習計画表」は毎年高校に提出している。また 1 年間で合計 5 回の定期考査 (定期テスト) を実施し、それと平常点を合わせて 10 段階評価を付けている。最近は成績を付けるにあたって平常点の割合を多くするようにどの高校からも求められていることを話した。

高校で学んだスペイン語が、将来生徒たちに何らかの形で残ってくれれば嬉しいと思う。